

浄願寺だより

R7 冬 No.22

遠方にお住まいのご門徒さんから、定期的にお寺の近況を聞かせてほしい、とのご要望があり、このたび、浄願寺だよりとしてお寺をとりまく身近な出来事を取りまめてお知らせしようと思ひます。夏冬二回、発行を予定しています。

令和七年一月二十五日発行

編集責任者

浄願寺住職 関 秀法

『言葉にできない』

終わるはずのない愛が途絶えた

いのち尽きてゆくように

ちがう きつとちがう

心が叫んでいる

ひとりでは生きて行けなくて

また誰かを愛している

こころ 哀しくて

…言葉にできない…

小田和正が作詞作曲した、オフコースというバンドの名曲。切ないメロディに乗せた「言葉にできない」という歌詞が胸に響きます。

人間は、あらゆる「苦悩」、悲しさや怒りや、虚しさを抱えて生きるもの。しかしその苦悩には、言葉に出来るものと、言葉にできないものがありますね…。「私はこのことが悲しいのだ」「あのことに怒っているのだ」と言葉にできるものは、苦しいけれど、まだ良いのかも知れません。「言葉にできる」ということは、これから出会う誰かや自分自身の「言葉」によって、その苦悩

はなぐさめられたり、癒されたりする可能性が大にあるからです。

しかし、私たちの本当の苦悩とは、自分が抱えている苦しみを「言葉に出来ない」、「誰にも伝えられない」ときにこそ生じるのではないのでしょうか。この心の奥底に抱えている悲しみや虚しさを、「言葉に出来ない」とこと自体に苦しんでいると言つてもいいのかもしれません。

小林一茶の俳句に「露の世は、露の世ながら、さりながら…」という句があります。一茶が二歳に満たぬ子を亡くしたときに詠んだ句だと言われている。この世は朝露のように儚く、むなしなものだと知っている…。知つてはいるのだが…と我が子の死を前に天下の俳人一茶をして、次の言葉がまったく継げなかつた心情が痛いように伝わってきます。

皆さんは、「観音菩薩」という菩薩様をご存じでしょう。観音菩薩とは阿弥陀如来の慈悲の心を伝える菩

薩様だと言われています。観音とは「音(声)」を「観る」と書きます。「音」は本来「聞く」ものです。それをなぜ、「音」を「観る」と名乗られるのか。

それは、私たちの苦悩の本質が、「言葉にできない」ものだからです。

仏教では、人間のあらゆる苦しみは、この命が有限であるところから生まれる、と説きます。どれだけ多くを手にしても、どんな幸せであつても、必ず終わりがやつてくる。必ず死を迎える人生を、何のために生きているのか…。

かなしいかな、私たちはその答えを持っていません。「死」とはこの人生を作り上げている物や言葉が突然、まったく何一つ通じなくなる世界のことです。死を向こうに見ながら生きるこの虚しさや寂しさを、私たちは「言葉にできない」のです。

その苦しみが言葉に出来るものならば、あれが苦しい、これが悲しいと声に出し、叫んで救いを訴えることもできましよう。しかし、「言葉にできない

い」この苦しさを、虚しさを、私たちは、いつたい誰にどう訴えればよいのでしょうか。

「観音」とは、その言葉にならない苦しみを、限られた命を生きるあなたの悲しさ虚しさを、仏はちゃんと「観て」いるぞ。その言葉にできない苦悩ごと、あなたを救うているから、安心して生きよ、精一杯生きよ、と仰つている。それゆえに「観音」、「音」を「観る」菩薩と申し上げるのです。

オフコースの「言葉にできない」の最後はこんな歌詞のリフレインで終わっていきます。

あなたにあえて 本当によかつた
嬉しくて 嬉しくて
言葉にできない…
ラフラ…言葉にできない…

実に、言葉にできない人生のようこびは、言葉にできない苦悩を抱え続けて生き抜く人へのご褒美の賛歌のようであります。

令和七年一月 住職

お寺とオンライン

最近、浄願寺では、お葬式に来られない方をネットでつないで参列していただいたり、ご法事をオンラインでお勤めしたり、ということが少しづつ増えてきました。

もちろん顔を見ながらお話できることに越したことはありませんが、それが難しい場合、インターネットを通して「つながる」ことは、今の時代当然の事となったようです。

昨年も、海外在住で長く親の法事が出来なかつたというご家族とネットを通じて法要を勤め、たいへんよろこんでいただきました。また病室とつないで、お勤めやお話をさせていただいたこともあります。「オンラインで法事なんて…」というご意見もよく分かりますが、浄願寺では、新たなご縁の選択肢の一つとして、ご要望があればいつでも応えられるように準備しておきたいと思っています。

近頃は、朝六時半からの晨朝のお勤めに、毎朝オンラインでご参加の強者も…。讃仏偈の勤行と寝起きの住職の短い法話で二十分ぐらいのお勤めです。スマホがあればズームというソフトを使ってもどなたでもご参加になれますので、ご希望の方は住職にご相談ください。もちろん直接お寺にお参りいただくことも大歓迎です！

お寺の掲示板

もっとも

優しい言葉は

その人の心を

呼ぶことである



オンライン法事の様子

皆さんそれぞれに、それぞれの生活スタイルに合わせて、お寺や仏さまとのつながり方を見つけていただければ幸いです。

門徒の広場は
WEB版では
ご覧いただけません

編集後記

先日、「老け作り（ふけづくり）」という日本語を知りました。「若作り」という言葉は知っていますが、「老け作り」は初めて聞きました。わざと実際の年齢より少し上に見られるようなファッションや言動にこだわる事なのだろうで、一部の変わり者の間で認知されつつあるのだとか…。しかし確かに「若さ」を礼賛して生きることにはいつか限界が来ます。それなら、どこかで「老い」を肯定し、より良く「枯れる」ことを理想として生きる考え方に早い目に切り替えた方が、楽に年を重ねられるようにも思いますが…。私、年寄りくさい事を申ししておりますでしょうか。これが「老け作り」です。笑。

浄土真宗本願寺派
笹尾山 浄願寺

〒620-0925

福知山市上篠尾725

電話 0773-22-5280

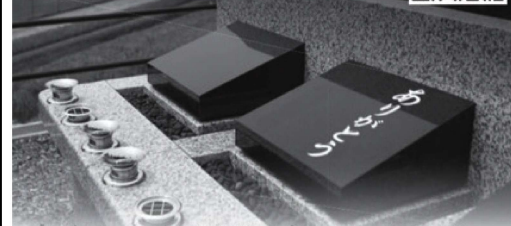
Email: jyouganjiweb@gmail.com

http://www.jyouganji.com

住職 関 秀法

ふるさとの杜 墓苑
永代供養墓

furusato no mori boen



「変わりゆく形 変わらない心」

笹尾山 浄願寺 福知山市上篠尾725

☎ 0773-22-5280 新区画が完成しました